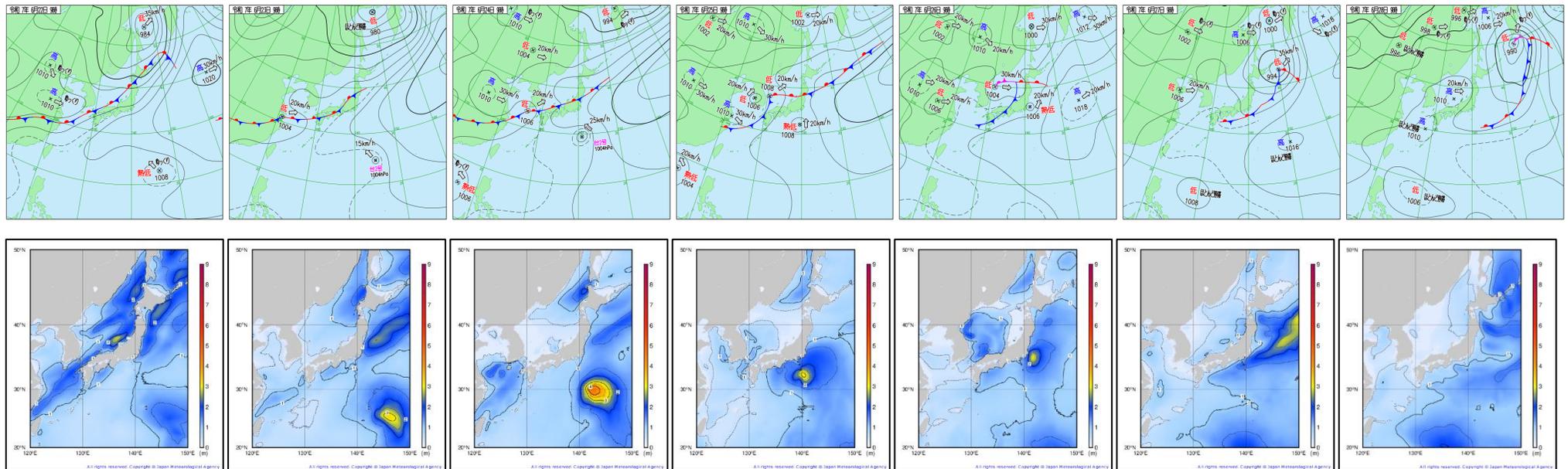


■天気図と沿岸波浪図 (6月22日～6月28日 ※毎日午前9時を掲載)

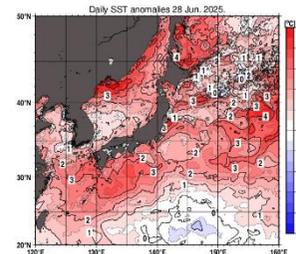


■気圧配置と波

22～24日、日本海から北日本にのびる梅雨前線が次第に南下し、本州付近に停滞。日本のはるか東の高気圧が日本の南に張り出し、前線との間で気圧の傾きが大きくなった。日本の東でやや波が高まった。小笠原近海の熱帯低気圧が23日に台風2号に発達。強風域を伴い北西進。小笠原近海で波が高まり、24日にはしけた。25日、台風2号は熱帯低気圧となり、八丈島の南を北上。26日は、関東の南に達し、北東進。伊豆諸島近海や関東沖で波が高まった。27～28日、北海道の東を北東進する低気圧から前線が太平洋側にのび、日本の東で波が高まった。

■海面水温

日本海域の海面水温は、北部や中部は平年より高く、大陸側でかなり高い海域が拡大。中部の大陸側では、最大で平年より5℃高くなった。西部は平年並み。東シナ海や太平洋側は、平年より高い海域が拡大。黒潮が接岸する潮岬沖では、平年よりかなり高くなった。三陸沖は、引き続き平年よりかなり高く、最大で4℃高くなった。北海道南東方沖やオホーツク海南部も、かなり高い状態が継続。オホーツク海南部では最大で4℃高くなった。



■海流の予想

黒潮は、九州東岸では引き続き離岸し、足摺岬では離岸と接岸を繰り返す。室戸岬では引き続き接岸するが、次第に離岸。潮岬では引き続き接岸。潮岬沖を東に流れ、東海沖の最南位置は32°N、139°E付近となる。伊豆諸島付近では八丈島の南を流れるようになる。房総半島では引き続き接岸するが、次第に離岸。親潮の南限位置は148°E以東に後退。親潮の面積は平年よりかなり小さい。対馬暖流の勢力は平年より強い。かなり強い。

